



前号に引き続き、この夏に国際交流を体験した生徒のレポートを掲載します。

ここ数年、保険会社のAIUが主催する「AIU High School Diplomats in 京都」に本校生徒が選抜されています。今年は更に「AIU High School Diplomats in USA」、アメリカでのプログラムにも選抜されました。全国から選抜された日本の高校生とアメリカの高校生がそれぞれの国で生活をともにしながら交流するという、とてもスケールの大きなプログラムです。高校2年生以上という参加資格がありますが、来年も多くの生徒諸君が参加希望することを楽しみにしています。

## 今の自分を知った！

高校2年 田向 健人

僕は今年の夏、USHSD というプログラムに参加してきました。AIU 保険会社が主催するこのプログラムは、高校生が外交官として米国の生徒と国際交流をするというものです。これは甲斐君が行った HSD とは系列が同じものの、内容は違います。違いは一つ、海外に行くか行かないかだけです。僕は HSD の方はあまり詳しくありませんが話を聞く限りこれで合っていると思います。細かい内容や実施期間、参加人数など違うところもありますが大まかな違いといえばこれだけです。どちらも充実した日々を過ごせることには違いありません！僕は米国生徒のルームメイトと毎日談笑したり、ゲームしたり、ときには意見の行き違いで喧嘩もしたりしましたが、これほどまで充実したプログラムに出会ったのは初めてです。異文化に触れることで得たパッションは絶大なもので今でもふとした瞬間彼らの事が頭に浮かびます。よく国際交流と聞くととても難しいものを想像するかもしれませんが、実際はそうでもありません。僕も最初特に米国生徒が来るほんの数分前まで緊張して全然声が出ませんでした。しかしいざやってみると不思議なものですんなりとコミュニケーションをとることができました。おそらく緊張よりも、期待とか喜びといった感情の方が僕の中ですでに彼らと会ったあの瞬間、上回っていたからだと思います。それからの日々は充実しすぎてあっという間でした。別れ際にはこれほどかといわんばかりに泣いてしまいました。ただこのプログラムのすごいところはここで終わらないところです。「ああ、楽しかったね」とか「ためになったね」では終わりません。そこからどう自分がどう変わるのかを問うのです。



プログラム中ことあるごとにミーティングを行い、今自分の納得のいくことができているのかを確認し、もしできていなかったら全員で助け合い達成する。最初はとてもありきたりでよく言う「意識高い系」かと思ったのですが、このプロ

グラムがもつ独特な雰囲気のおかげなのか、自然と参加してしまい、次第にはもしかすると中高一貫の長い付き合いの仲間よりも本音をぶつけ合えるようになっていたかもしれません。

よく他人は僕のことを「怒らない」と言うのですが、これは本当だと思っていました。感情を昂らせるのは疲れるだけで事実これまであまり怒った記憶がありません。けれどこのプログラムでほとんど久しぶりに怒りました。僕のディスカッションのグループがあまりにも不真面目で全然話を聞いてくれなくて怒りました。普段学校の話合いでもあるような状況にもかかわらず怒りました。その時僕は普段いかに手を抜いて日々を過ごしているのか実感しました。あの時怒ったのは日本人側生徒が一生懸命原稿を作っていたのを知っていて、なおかつ自分もかなり真面目に取り組んでいたからだと思います。その考えで行けば自分は普段から真面目に物事に取り組んでいなかったことになります。これに気づけただけでも僕は変わったと思っています。まだまだ話したいことはたくさんありますが百聞は一見に如かずとも言います。ぜひ自分の目で確かめに行ってください。自分の中の自分を見つめるいい機会になると思います。

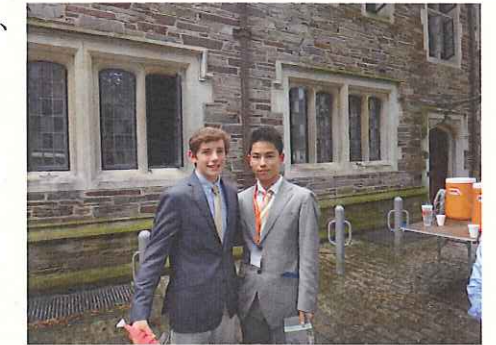


## 濃密な3週間+α

高校2年 甲斐 亮吾

私はこの夏、保険会社 AIU の主催する High School Diplomats (通称 HSD) に参加させてもらった。簡単にプログラムの流れを説明すると、日本人40人とアメリカへ渡り、ワシントンとニューヨークを見学し、ホームステイをして、その後同年代のアメリカ人とルームメイトになり、10日間プリンストン大学で過ごす、というものである。3週間かけて行われる。

このプログラムは渡米費を支給してくれることもあり、応募者多数のため選考があった。その選考基準はおおまかに言うと「このプログラムを将来に活かせるか」というものである。英語での簡単なエッセイなどはあったものの、そのまま学力を見られることはなかった。私にとって今までにないタイプの選抜方式であり、応募者約900人の中からどのようにして選ばれるかを考えた。このプログラム中に何をして、そしてそこから何をしたいのか。自分のことや自分がやりたいことを考える経緯は、結果的に自分が今までどのような人生を送ってきて、今どのように感じ、そしてこれから始まる自分の将来をどう描きたいのかということを改めてじっくりと考えるよい機会となった。



受かってからの準備期間、そして渡米からの3週間は本当にあっという間だった。現地で日本に関するプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーション班で3か月間打ち合わせをした。私の班は日本の教育についてであり、これを機会に日本の教育に関する知識(歴史、特



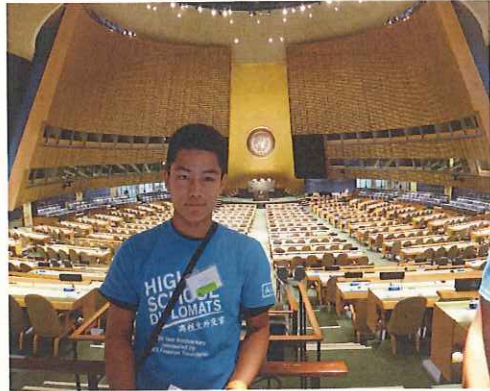
徴、課題点、人間形成への影響など)を得ることができた。日本に住み、学校に毎日通っているながらも知らないことや気づかないことが多く、学ぶことが多かった。

プログラムの第一目的として「人間交流」がある。知らない人同士の状態からスタートしたこのプログラムであるが、プログラムが終了する頃にはだいぶお互いに仲良くなった。お互いがお互いをリスペクトし、助けあえるような理想的な関係であったと思う。プログラムを通して悪口のような類のものは聞いたことがなかったし、司会をやったりプレゼンをしたりすると照れずに「よかったよ！素晴らしかった」とほめてくれる。それは日米両方に共通することであった。携帯の使用が禁止であり、外部との連絡が遮断されている中で過ごした3週間は非常に濃密なものとなった。その感覚はお互い共有しているようで、プログラムが終わって1か月経った今でも毎日のように連絡を取り合っている。

特に10日間同じ部屋でみっちり1人のアメリカ人と過ごすことができたのはなかなか興味深かった。政治や社会問題、友達関係などの割と深めの話をすることができた。自分と異なる考え方、意見であることが多く、なぜそう考えるのだろうと彼のバックグラウンドなどに思いを馳せながら話すのはじわじわとゾクゾクしてくる快感があった。夜寝る前に話し始めて話しているうちに目が冴えて眠れないこともあった。

このプログラムは3週間で詰め込めるだけ詰め込んだ盛りだくさんの要素が詰まっている。アメリカの中心都市を見たり、国務省の高官と話したり、ホームステイで家庭生活を体験してみたり、同年代のアメリカ人と濃い時間を過ごしたりできる。特にエクステンジ中(アメリカ人の学生が加わるパート)では朝の7:30に集合してそれから夜の10:30まで部屋に戻ってこずにずっとアクティビティを行う、ということもざらである。個人個人が毎日充実した濃い日々を過ごせるプログラムであったと私は思う。

最後に選考の段階からご指導いただいた春田先生、ファース先生、本間先生、ありがとうございました。



第30回を記念して、参加者で作った人文字

## アメリカ大学進学相談会のお知らせ

2013年に本校を卒業してアメリカアイオワ州の Grinnell College というリベラルアーツの大学に進学した大村君の紹介で Grinnell College を含めて3大学の入学担当者が本校を訪問して下さることとなりました。昼休みの短い時間を利用しての会となりますが、海外大学進学に興味のある生徒諸君は直接話を聞ける貴重な機会となりますのでどうか積極的に活用して下さい。中学生は体育祭の予行演習と重なってしまうため出席は難しいと思いますが、今後も同じような機会はあると思いますので次回以降お待ちしております。

(大村君は、「グローバル通信第7、9、16、30号に自身の留学体験を寄稿してくれています。是非もう一度読んで下さい。海城学園のホームページから検索できます。)

日時：9月28日(水) 昼休み1時～1時30分  
場所：第4会議室(3号館1階 グローバル部横)  
来校大学：Grinnell College (アイオワ州)

Vassar College (ニューヨーク州)

Kalamazoo College (ミシガン州)

その他：参加希望者は、9月26日(月)までにグローバル教育部に申し出て下さい。

当日の使用言語は基本的に英語となります。参考までに3大学のウェブサイト掲載しますのであらかじめ見ておくとよいと思います。

Grinnell <<https://www.grinnell.edu/news/theres-something-about-grinnell>>

Vassar [www.vassar.edu](http://www.vassar.edu)

Kalamazoo [www.kzoo.edu](http://www.kzoo.edu)



Jonathan Edwards  
Associate Dean of Admission  
Coordinator of International Admission